

9月18日(火)、黒崎中学校体育祭で、男子による棒倒し競技。

ニ/ユ/ー/ス/足/報/ 毎月15日ごろまでにこの巻

スポーツ会大 8・9月

◆第13回少年野球大会 (8月26日、木場野球場) ①立仏A ②大野A ③木場A、山田B ※13チーム参加

◆交通安全高齢者自転車大会 (9月11日、総合体育館) ①小平方A ②木場八割 ③鳥原大明 ④板井二 ⑤善久 ⑥寺地団地 ※20チーム 100人が参加。この大会の上位入賞3チームは、来年春の西交通安全協会の地区大会に出場します。

◎新潟県壮年野球大会で 黒崎クラブがブロック優勝 第26回新潟県壮年野球大会が9月2日、木場野球場ほかを会場に開催されました。黒崎クラブをはじめ県内各地から18チームが参加し、4ブロックに分れ、熱戦を繰りひろげました。優勝は小出ポロリーズ。黒崎クラブはAブロックでブロック優勝と善戦しました。この大会に出場する選手は45歳以上で投手は49歳以上。試合は常時出場者の年齢が450歳以上で進められます。黒崎クラブは過去、昭和61年と62年に優勝しました。黒崎町が会場となったのは、今回が初めてです。

自転車乗りを正しく

九月十一日(火)、総合体育館で高齢者自転車乗り大会が開催されました。お年寄りに正しい自転車の乗り方を知ってもらうため開かれたもので、競技は、信号機や踏切などのあるコースを交通ルールを守りながら走ったり、八の字やS字カーブを曲がったりし、どれだけ正しく走れたかを競います。結果は右欄の通り。



「生まれ」では左右をよく見て

歌と踊りで一日楽しむ

九月五日(水)、農村環境改善センターで町老人クラブ連合会の芸能祭が開かれました。昨年、初めて開き、今年が二回目です。町内各地のグループによる歌や踊りなど、昨午を上げる約四十の演目があり、軽妙な司会で次々に演ぜられ、拍手喝采を受けていました。見る方も演じる方も大いに楽しんで一日でした。



県民会館の3階が会場です

夫婦で米寿を迎える

郵便局では毎年、敬老の日に合わせて、八十八歳(米寿)を迎えた人に記念品を贈っています。今年も町内で二十一人が米寿を迎えました。中でも立仏の風間津治郎さん・トシさん夫妻は、夫婦そろって米寿を迎えるということで、大野町郵便局長らが訪問し、賞状と記念品を手渡しました。

緒立遺跡の出土品展

九月十四日から新潟県美術博物館で中国甘肅省文物展と越佐のあけぼの展が開かれています。越佐のあけぼの展では、黒崎町からも緒立B遺跡から出土した加工痕のある人骨も展示されています。なお、この展覧会は十月二十三日まで開かれています。入場料は大人千円、高校・大学生五百円、小中学生三百円です。

6人の仲間で3曲を踊ります

山田老人クラブの6人の仲間で、今回の町老連芸能祭では3曲踊ります。これから踊る「好きになった人」は練習を1、2回しかしてないのでどうなりますか。



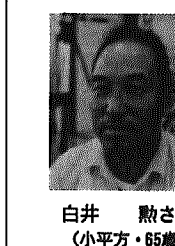
参考になった自転車乗り大会

自転車は乗りますが、田んぼ道を走るくらい。だから競技会には参考にもなったし、いい汗もかきました。最後までピンをひっくり返したのがとても残念でした。



競技と思うと緊張しますね

競技と思うとさすがに緊張、肩に力が入ってハンドルが思うように動かない。ふだん、自転車に乗っててもあまり確認しないのでこの大会はいい勉強になった。



大成功の「ジャパンデー」 ハンガリーの首都ブタペストから一時間ほどの、日本語と居合術の盛んな街、セカシフェルバルで私たちはホームステイすることになったのだが、そこでのミーティングを「ジャパンデー」として、日本食を出そうと計画した。焼き飯や、海苔などは日本から持参した梅干しの入ったおにぎりなど、評判は上々で、私たちの計画は大成功だった。このミーティングでは「ハンガリーの将来をどう思うか、われわれハンガリー人はどうすればいいのか、日本はわれわれに力を貸してくれるか、率直な意見を聞かせてほしい」と熱心な討論の場となった。また、「いまハンガリーが外国に売れる物は何もない。しかしハンガリーには素晴らしい文化遺産という観光資源があるではないか。これを大切に、観光立国につとめるべきだ」と口々に力説した。彼らもこれには強い同感を示していた。遠かったチェコへの道

九月五日(水)、農村環境改善センターで町老人クラブ連合会の芸能祭が開かれました。昨年、初めて開き、今年が二回目です。町内各地のグループによる歌や踊りなど、昨午を上げる約四十の演目があり、軽妙な司会で次々に演ぜられ、拍手喝采を受けていました。見る方も演じる方も大いに楽しんで一日でした。

ク処刑で名高いルーマニアはどうかと考えたが、政情が不安定でかなりの危険もありそうだし、第一ビザがおりないだろうというので、「ブラハの春」で名高いチェコへ行こうということになった。ホームステイの終わる前に、チェコの大使館を訪ねた。大使館前には五十人とも七十人とも数えきれない人たちが、鉄の扉にかじりつくようにして、中をのぞきこんだり、中には大声でわめいたりしている者もいた。

た。ホテルと帰りの航空券はチェコに入ってから工面しようと考えていたが、ホームステイ先の主人の手腕とご努力で、出発のぎりぎり間際になって手に入った。ブラハの夏

史博物館の建物は総大理石造りの中世の王宮で、ブタペストで見たどの建造物よりもさらに大きく、市中央の高台から全市を見下す形で威容を誇っていた。夏のブラハは、つい先頃まで激動の政変の真ただ中にあった街とはとうてい思えないほど、世界中からの観光客であふれ、にぎわっていた。この街へ来るまで、ブタペストを世界一美しい古都と絶賛し、旅の便りにもそう書き続けてきた。が、ここブラハ市

チェコのビザを無駄にしてはとブラハ市内の一巡を終えたあと、電車で往ける田舎巡りを試みた。最初は、ブラハから電車で二時間半の南ポヘミヤ地方の小さな町ターボルを訪ねることにした。電車の窓からながめる風景は、どこまで行っても集団農場の大規模経営の麦畑が延々と続き、そのところどころにリンゴ園が見えた。麦はすでに収穫を終えたものの、これからの収穫を待つものなどいろいろだが、豊作と

私の東欧見聞録②

ハンガリーからチェコへ。古都プラハに感嘆

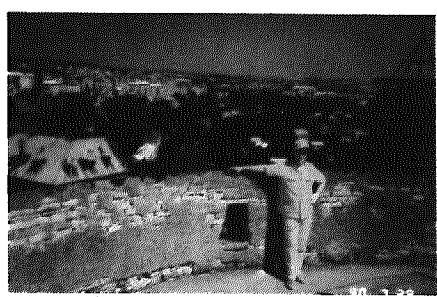
日陰のない照りつける門前で待つこと三時間、ようやくわたしたち全員チェコ入国のビザを手に入れることができたのである。次は交通手段である。一番可能性の高いのは、陸路を列車で行くことだが、十時間もかかるという。限られた時間を有効に使うため、何とか飛行機のキップを手に入れようと旅行代理店を訪ねた。しかし、これまたビザの入手以上に難しく、あの手この手で、二日ばかりでどうにか入手し

街を一巡してみても、この街の美しさに魅せられてしまい、「古都プラハもまた」と感嘆を禁じえなかった。ロマネスク建築、ゴシック建築、ルネッサンス建築、バロック建築と、世界のあらゆる歴史的建筑様式の博物館プラハ、その市内には合わせて百以上もの尖塔があると言われている。そして、あれほどに激しかった政変の余韻はどこにも見ることができなかった。チェコの田舎巡り

ターボルの街は、中世の城下町がお城ともども七百年の歴史の眠りを続けているといった感じの廃墟の街だった。最盛期には少なくとも数万人は住んでいたであろうと思われる、かなり大きな町なみは、どこも白い壁に赤茶けたスレート屋根、どの家も人の住んでいる気配はまったくなく、壊れた窓、破れた壁が中世からそのまま放置されているようなゴーストタウンで、まばらに観光客とすれ違う程度だった。それでも市街地から駅前にくだった窪地に小さな湖水があり、ここだけは避暑客の水着姿で少し華やいていた。(以下次号)



プラハ市内



ターボルの街で